



校や通学路を巡回するとともに、地域内の見守りボランティアと学校とのパイプ役として活躍しています。

教育委員会はそのほか、各学校へ▽防犯ブザーの貸与▽パトロール中を明示したマグネットシートの配布▽不審者情報の提供一などを行っています。また、

市が「いわてモバイルメール」を利用して行っている携帯電話へのメール配信を活用して、不審者情報の提供も行っています。

**今できることから行動を**

「本当は集団下校でなく、好きな友達と遊んで、道草しながら

帰れる世の中であってほしい。しかし現実には命と安全が第一なので、地域の連携ですきのない体制づくりを目指しています」

伊藤校長の言葉は、多くの人々の意見を代弁しています。地域の大切な宝・子どもたちを守るために、それぞれの立場でできることを始めてみませんか。

事例1  
萩荘小

## 安全を支える「はぎっ子サポート」

萩荘小学校(伊藤正幸校長・児童432人)には住宅街から歩いて通う児童、農村部に住み学校までの約10分をスクールバス

で通う児童、とさまざまな環境の子どもたちが通っています。その子たちを守るのが、薄紅色の地に「はぎっ子サポートチーム」と白抜きされた腕章をつけた大人たちです。

この「はぎっ子サポートチーム」が誕生したのは17年11月。地区の民生児童委員協議会に出席した伊藤校長が児童の安全対策について相談したところ、たちどころにさまざまな案が出されました。それらをもとに地区の▽健全育成推進協議会▽区長会▽防犯協会・民生児童委員協議会▽小・中学校PTAの代表

者が発起人となり、「はぎっ子サポートチーム」への登録を地区内全戸に配布した文書で呼びかけたのです。

同チームは「気軽に参加できる」ものにしたと代表や会則は設けないゆるやかな組織で、事務局の同小へ連絡すると、腕章と会員証が届けられる仕組み。現在の登録は80人余で、登下校時の見守りを中心に、▽犬の散歩をする人▽自転車に乗って通学路を巡回する人▽スクールバス下車時刻に合わせて近辺を車で巡回する人など個人の事情に応じて活動しています。

### 心と安全両面をサポート

同チームの活動開始以来、



はぎっ子サポートチームは、親しく言葉を交わしながら、子どもたちと学校を支える“サポーター”

「チームの皆さんが安全面のサポートはもちろんのこと、児童の生活、心とあらゆる面のサポーターになってくれたことがうれしい」と伊藤校長。「○○君が水路に落ちて靴をぬらした、□□ちゃんと△△ちゃんがけんかしていたなどと教えられ、身

近に接しているのがわかります。ほぼ毎日活動している方も20人はおられ、犯罪発生の大きな抑止力になっていると実感します」と感謝します。

最近小学生だけでなく中学生・高校生を巻き込んであいさつの気風が広がり、地域の明る

い雰囲気を作る大きな原動力となっているといえます。

市の交通指導員も務める平野勝さんは、同チームのリーダー的な存在。

「子どもたちの防犯と交通安全のため、チームの皆さんで力を合わせて活動しています。冬の場の寒さが身にこたえることもありですが、子どもたちとあいさつだけでなくいろいろな会話を交わす楽しみや、『ありがとう』の声が励みですね」

ほとんど毎日の朝夕、通りに立ち子どもたちを見守り続ける平野さんです。



ほぼ毎日通りに立ち見守る平野勝さん